

「使用上の注意」改訂のお知らせ

ベルラー錠 20 μ g は、
ベラプロスト Na 錠 20 μ g 「オーハラ」
(2013年6月薬価収載)に販売名が変更になりました。

平成 23 年 3 月
製造販売元 大原薬品工業株式会社
お問い合わせ先：安全性調査部
TEL：03-6740-7701
FAX：03-6740-7703

経口プロスタサイクリン (PGI₂)
誘導體製剤
劇薬、処方せん医薬品^{注1)}

ベルラー[®]錠 20 μ g

BERULER[®] TABLETS 20 μ g
(ベラプロストナトリウム錠)

注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

この度、弊社製品『ベルラー[®]錠 20 μ g』の【使用上の注意】を改訂いたしますので、お知らせ申し上げます。

今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

1. 改訂内容〔____部：追記箇所（事務連絡）、_____部：追記箇所（自主改訂）〕

事務連絡（平成 23 年 3 月 22 日付）及び自主改訂により変更いたします。

改訂後	改訂前
<p>【使用上の注意】</p> <p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) 重大な副作用（頻度不明）</p> <p>1) <略：現行どおり></p> <p>2) ショック、失神、意識消失：<u>ショック、失神、意識消失</u>を起こすことがあるので、観察を十分に行い、<u>血圧低下、頻脈、顔面蒼白、嘔気等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u></p> <p>3)~6) <略：現行どおり></p> <p>7. 小児等への投与 低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。<u>(慢性動脈閉塞症においては使用経験がない。原発性肺高血圧症においては使用経験が少ない。)</u></p>	<p>【使用上の注意】</p> <p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) 重大な副作用（頻度不明）</p> <p>1) <略></p> <p>2) ショック：<u>ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、頻脈、顔面蒼白、嘔気等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</u></p> <p>3)~6) <略></p> <p>7. 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。(使用経験がない。)</p>

2. 改訂理由

- **事務連絡**(____部)：厚生労働省医薬食品局安全対策課事務連絡（平成 23 年 3 月 22 日付）に基づき改訂いたします。
- **自主改訂**(_____部)：先発会社の改訂に伴い、本剤においても同様の記載をいたします。

☆ 改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行「DSU 医薬品安全対策情報 No.198 号」に掲載されます。

ベルラー®錠 20 µg 改訂後の【使用上の注意】全文 (追記箇所: **・下線部)

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- (1) 出血している患者 (血友病、毛細血管脆弱症、上部消化管出血、尿路出血、喀血、眼底出血等) [出血を増大するおそれがある。]
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 (「6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

原発性肺高血圧症

- (1) 原発性肺高血圧症と診断された患者にのみ使用すること。
- (2) 本剤は経口投与であるため、重症度の高い患者等では効果が得られにくい場合がある。循環動態あるいは臨床症状の改善が見られない場合は、注射剤や他の治療に切り替えるなど適切な処置を行うこと。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

原発性肺高血圧症

原発性肺高血圧症は薬物療法に対する忍容性が患者によって異なることが知られており、本剤の投与にあたっては、投与を少量より開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら行うこと。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 抗凝血剤、抗血小板剤、血栓溶解剤を投与中の患者 (「3. 相互作用」の項参照)
- (2) 月経期間中の患者 [出血傾向を助長するおそれがある。]
- (3) 出血傾向並びにその素因のある患者 [出血傾向を助長するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の有効成分は「ケアロード LA 錠 60µg」、「ベラス LA 錠 60µg」と同一であるが、原発性肺高血圧症において用法・用量が異なることに注意すること。
- (2) 原発性肺高血圧症において「ケアロード LA 錠 60µg」、「ベラス LA 錠 60µg」から本剤へ切り替える場合には、「ケアロード LA 錠 60µg」、「ベラス LA 錠 60µg」の最終投与時から12時間以上が経過した後、本剤をベラプロストナトリウムとして原則1日60µgを3回に分けて食後に経口投与することから開始すること。また、「ケアロード LA 錠 60µg」、「ベラス LA 錠 60µg」と同用量の本剤に切り替えると、過量投与になるおそれがあるため注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝血剤: ワルファリン等	出血傾向を助長することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又はいずれかの投与を中止するなど適切な処置を行うこと。	相互に作用を増強することがある。
抗血小板剤: アスピリン、 チクロピジン等		
血栓溶解剤: ウロキナーゼ等		
プロスタグランジン ₂ 製剤: エポプロステノール、 ベラプロスト ^{注2)}	血圧低下を助長するおそれがあるため、血圧を十分に観察すること。	相互に作用を増強することが考えられる。
エンドセリン受容体拮抗剤: ボセンタン		

注2) 同一有効成分を含有する「ケアロードLA錠60µg」、「ベラスLA錠60µg」等との併用に注意すること。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

1) 出血傾向(脳出血、消化管出血、肺出血、眼底出血): 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

** 2) ショック、失神、意識消失: ショック、失神、意識消失を起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、頻脈、顔面蒼白、嘔気等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 間質性肺炎: 間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

4) 肝機能障害: 黄疸や著しいAST (GOT)、ALT (GPT) の上昇を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

5) 狭心症: 狭心症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

6) 心筋梗塞: 心筋梗塞があらわれるとの報告があるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

以下のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、適切な処置を行うこと。

	副作用の頻度
	頻度不明
出血傾向 ^{注3)}	出血傾向、皮下出血、鼻出血
血液 ^{注3)}	貧血、好酸球増多、白血球増多、血小板減少、白血球減少
過敏症 ^{注3)}	発疹、湿疹、痒疹、蕁麻疹、紅斑
精神・神経系	頭痛、めまい、ふらつき、立ちくらみ、眠気、もうろう状態、しびれ感、振戦、不眠、浮遊感
消化器系	嘔気、下痢、食欲不振、胃潰瘍、嘔吐、胃障害、口渇、胸やけ、腹痛、上腹部痛、胃不快感
肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、γ-GTP 上昇、LDH 上昇、ビリルビン上昇、ALP 上昇、黄疸
腎臓	BUN 上昇、血尿、頻尿
循環器系	顔面潮紅、ほてり、のぼせ、動悸、潮紅、血圧低下、頻脈
その他	トリグリセライド上昇、浮腫、疼痛、胸部不快感、関節痛、息苦しさ、耳鳴、倦怠感、発熱、熱感、発汗、冷汗、胸痛、背部痛、頸部痛、脱毛、咳嗽、筋痛、顎痛、脱力感

注3) 異常が認められた場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

高齢者には用量に留意して投与すること。〔一般に高齢者では生理機能が低下している。〕

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。〕

** 7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(慢性動脈閉塞症においては使用経験がない。原発性肺高血圧症においては使用経験が少ない。)

8. 適用上の注意

薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

9. その他の注意

慢性動脈閉塞症において本剤を1日180µg投与したとき、副作用発現頻度が高くなるとの報告がある。